

支え合うサロンで認知症予防を

経営トップ講義

⑧ @県立大 2019~20

「ビジネス経済の実践」要旨

⑧



「自助・互助のシステムづくりに協力してほしい」と話す
富永理事長
＝県立天佐世保校(山下哲嗣撮影)

白十字会理事長

とみなが まきや 富永 雅也氏(64)

今年創業90周年を迎えた。祖父が1929年に佐世保市内で診療所を開いたのが始まり。現在は佐世保中央病院や耀光リハビリテーション病院に加え、長寿苑などの介護施設、福岡市の白十字病院などを運営している。

が広まり、病院や施設など他人に頼って当然という風潮が生まれた。その結果、医療・介護費は高騰。巨額の赤字国債を発行し、将来世代に負担が重くのしかかっている。

問題なのは、誰もがなりたくない認知症患者が増えていることだ。国は2040年

脳刺激し健康寿命延ばす

に約400万人になると予想しているが、ほかの調査では約1千万人にとりもいわれている。そのころの日本人の人口は約1億人だから10人に1人だ。社会が成り立つわけがない。

解決策の一つは、認知症を予防することだ。健康の加齢から認知症への経過の中で、軽度の認知機能低下(MCI)の期間がある。MCIの前半期は脳の萎縮や血流の低下が進んでおらず、健康加齢に戻る可能性がある。しかし後半期は脳の萎縮が進み、確実に認知症が進行する。

市内では数百カ所のサロンが活動している。継続させるには、熱意のあるリーダーが必要だ。そこで、サロンリーダーの育成講座を開いている。これまでに100人以上が誕生した。

1人暮らしの世帯が増えていく。寂しくなれば人は寄り合いたい。サロンで会話を交わし、笑い、運動し、おせっかいを焼く。これらは健康寿命を延ばすために不可欠だ。サロン終了後に買い物やごみ出しを手伝うようになれば、町づくりにもなる。今、地域で必要なのは支え合いだ。自助・互助のシステムづくりに協力してほしい。(湯村高大) 次回(24日)に掲載します